

「卒業後も学ぶ態度持って」

9月卒業者の学位記授与



和田学長（左）から学位記を受け取る卒業生

小樽商大の9月卒業者の学位記授与式が21日、同大(緑3)で開かれた。学部生7人のうち3人が出席し、和田健夫学長から学位記を受け取った。

9月卒業は海外留学などで3月に卒業できなかった学生が対象。和田学長は「経

済や社会の構造が変化する不確定な時代を生き抜くために、卒業後も学ぶ態度を持ち続けてください」とはなむけの言葉を贈った。

商学部商学科の丹生谷果歩さん(23)は「北海道の旅行会社に就職を決めた。大学のゼミナールで、小樽市内を英語で案内する観光マップを作ったことがきっかけでした」と振り返っていた。

(有田麻子)

キャラカード集め 20市町村巡って

樽商大教職員が作成

管内施設で配布

小樽商大の教職員でつくるプロジェクトチームが今年も後志管内全20市町村のご当地キャラクターカードを作り、管内の道の駅や観光関連施設で無料配布している。小樽市の「おたる運がっぱ」や岩内町の「たら丸」などキャラの説明のほか、今年は各市町村の特徴も分かりやすく紹介した。担当者は「胆振東部地震後、後志も観光客が減った。カードを集めながら楽しく各地を巡ってほしい」と期待する。(有田麻子)

同チームは2014年から、ご当地キャラのカード金で昨年で終了し、今年はまたはシールの配布を続け、後志の各自治体などから協



道の駅などで配布している後志全20市町村のご当地キャラカード

力を得た。1種類千枚ずつ限定で9月15日に配布を開始。すでに会員制交流サイト(SNS)では全20種を集めた人の投稿が相次いでいるという。

カードにはキャラと光るホログラム加工を施した。表にご当地キャラのイラストとプロフィールを掲載。裏に地図とランドリーサイン、人口、面積、市町村名の由来を記した。担当者は「子どもたちが自分で調べたくなるよう、情報を詰め込みます。シリアルにした。秋の後志は景色が良くて農作物も堪能できる、とても良い時季。ぜひドライブを楽しんで」と話す。11月25日までだが、カードがなくなり次第終了。問い合わせは同大 ☎0134・27・5234 (平日午前8時半～午後5時)へ。

ネフスキー家族写真

積丹の親族が寄贈

妻イソと肅清されたロシア人言語学者

市立小樽図書館(花園5)は25日から、小樽ゆかりのロシア人言語・民俗学者、ニコライ・ネフスキーの資料展を初めて開く。故・イソ夫人の積丹町の親族が、ネフスキーの生涯を描く音楽朗読劇「島へ」上演を機に、家族写真や1960年代から集めてきた関連記事などを24日に寄贈。26日には沖繩・宮古島の歌手、與那城美和さんを迎え、トークイベントも開く。

きょうから 小樽図書館 初公開

勇雄さんは、入舸村(現・積丹町入舸町)出身のネフスキー夫人、萬谷イソさんのおいで、母のヤエさんに贈られた写真や、旧ソ連に渡ったネフスキー夫妻と一人娘、エレナさんの消息を報じる新聞記事などを大切に保管してきた。

寄贈されたのは写真が39点、記事、家系図、エレナさんの書簡など29点。このほか、宮古島市立図書館が所蔵するネフスキー直筆の「宮古方言ノート」(複写)、小樽商大に残る自筆履歴書なども展示する。



小樽図書館の鈴木浩一館長は「資料と人をつなぐ役割が図書館にはある。ネフスキーを市民に知ってもらい、研究に役立ててもらえれば」と資料提供に感謝。三上さん夫妻は「役立ててもらえ、本當にうれしい」と話している。10月9日まで。午前9時30分〜午後7時(土・日・祝日は同5時まで)、月曜休館。トークイベントは26日午後6時。27日に小樽市民センター・マリナーホールで上演される「島へ」の台本を執筆した演出家、垣花理恵子さんが講演。與那城さんはネフスキーの聴いた宮古島古語を披露する。無料。

(藤盛一朗)

寄贈されたネフスキーの家族写真と「宮古方言ノート」など展示資料

ネフスキーの最期

音楽朗読劇で再現

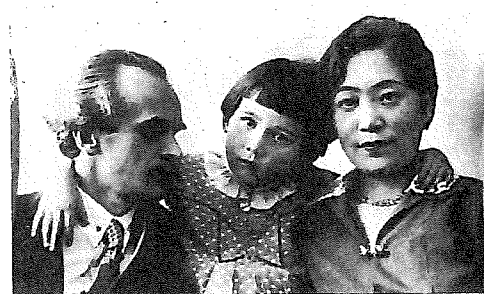
【小樽、積丹】アイヌ語や沖繩の宮古島方言を研究したロシア人言語・民俗学者ニコライ・ネフスキー(1892～1937年)の小樽来訪100年目を記念し、音楽朗読劇「島へ、ニコライ・ネフスキー人生の旅」が27日、小樽市民センター・マリオンホールで初演される。入舸村(現、後志管内積丹町)出身の島谷イソと結婚し、旧ソ連で日本「のスパイ」のぬれぎぬを着せられ処刑された軌跡を再現。市立小樽図書館は25日から、道内各親族に伝わる写真やネフスキーの直筆研究ノートを複写した「宮古方言ノート」を展示する。ネフスキーは、1919年(大正8年)に小樽高等商業学校(現・小樽商大)にロシア語教師として赴任。日本語や文化の原型が残るとみて宮古島を3度訪れ、約5千語の方言ノートを製作。死後は北東アジアの西夏語研究の世界的権威として再評価が進んだ。

音楽朗読劇は、上川管内下川町公民館などが主催する北の星座音楽祭と、同祭の小樽実行委が共同制作。小樽時代の教育活

小樽来訪100年目 研究資料も展示

動や、方言を操って古謡、神話を探求した宮古島への旅、スターリン体制下で不当に逮捕されながらも良心を貫いた夫妻の最期を描く。宮古島から招く民謡歌手、與那城美和さんの歌唱や

ピアノ、ピアノ演奏、オリジナル台本の朗読で構成する。イソ夫人のおいで、積丹町美雄さん(82)と妻の三子さん(78)が上演を知り、家族写真や書簡、



④大事にしてきた写真や関連記事を前に「ネフスキーとイソの物語は終わりでなかった」と話す三子勇雄さん(右)と三子さん(左)の生前の(左から)ネフスキー、エレーナ、イソ(撮影地、撮影年不明、三子さん提供)

関連記事など68点の資料を小樽実行委を通じて小樽図書館に寄贈した。三子さんは「ネフスキーとイソの物語は終わっていないかったんだね」と感慨を話す。

ネフスキー夫妻の一人娘で小児科医のエレーナさんは89年7月に来道し、親族と交流。昨年12月にサンクトペテルブルクで亡くなった。2人は「自宅に迎え、赤飯を炊いた。浴衣を着てもらった」と懐かしむ。

午後6時半開演。一般2500円(道新ぶんぶんクラブ会員は2千円)など。問い合わせは丹治さん☎0134・61・1500へ。下川町公民館でも29日午後2時に上演。問い合わせは同公民館☎01655・4・2511へ。小樽図書館の展示は10月9日まで。(有田麻子、藤盛一朗)

